

H24年度 小国地域委員会 第1分科会 (活動報告)

【メンバー：◎角山徳郎、○中村官、山崎豊志、山崎広子、山田晴美、今井則子 計6名】

今年度のテーマ：「前年度開催のシンポジウムで明らかになった課題を解決するための具体的な事業の役割を担う」

今任期中の第1分科会では、前年(H23)に開催した「これからの医療と福祉を考えるシンポジウム」から明らかになった課題（若者の参加が少ない、介護保険の利用や介護予防の認知不足など）を少しでも前進させるための具体的な事業を提案し、また企画・運営にも参画して住民と支所が協働で高齢化が著しい当地域を活性化するために活動する。

【分科会の開催経過及びその他関連事業への出席状況】

実行委員会	H24. 4.10(火)	4名	第3回「元気な小国を育てる事業」実行委員会への出席 (角山、山田、今井、中村) 開催日の日程変更の承認、講演会講師の一任、ウォーキングなど内容について意見交換を行う
実行委員会	H24. 4.12(木)	3名	高齢者元気支援事業実行委員会への出席 (山崎(豊)、角山、山崎(廣)) ・実行委員会の委員長に「山崎廣子委員」が選任された ・地域ディ修了生の集まり、ワークショップの持ち方、けんこつ体操教室の再構築、全体のタイムスケジュールなどについて意見交換を行う
打合わせ会	H24. 5.21(月)	2名	担当者打合わせ会 (角山、今井) 事前準備の進捗状況 (ウォーキング、トン汁、ニュース紹介、保育ルーム、広報チラシなど)
第1回分科会	H24. 5.22(火)	6名	1 H24年度ふるさと創生基金事業の進捗状況について ①元気な小国を育てる事業 (7月8日予定) 実行委員として (角山、中村、山田、今井) ・「食育講演会」「ウォーキング大会」「ニュース紹介」の準備状況について確認など ・役割分担 進行 (山田)、主催者挨拶 (角山)、ニュース運営 (今井、山田)、その他 (当日の運営に協力する) ②高齢者元気支援事業 ・地域ディ卒業生の集い (さくらの会) の日程 5月から毎月1回開催される中で、予防メニューの手伝いに「山崎(豊)、角山、山崎(廣)、山田」から入ってもらう ・ワークショップ (関係者・地域団体・一般住民) ・事業全体の計画についての意見交換
実行委員会	H24. 6.25(月)	4名	第4回元気な小国を育てる事業実行委員会に出席 (角山、中村、山田、今井) ・広報PR、参加賞の案、雨天時の判断など
	H24. 7.6(金)	4名	前々日の会場準備に参加協力 (角山、中村、山田、今井)
	H24. 7.8(日)	6名	「食育講演会&健康ウォーキング」の開催日当日 ・全体の進行 (山田)、実行委員長の挨拶 (角山)、そのほかの委員もスタッフとして活動する

実行委員会	H24. 7.27(金)	5名	第5回元気な小国を育てる事業実行委員会に出席 (角山、山田、今井、中村、山崎(廣)) ・実施状況及び反省点の報告 ・次年度へ向けての意見交換
第2回分科会	H24. 9.27(木)	6名	1 ふるさと創生基金事業の進捗状況について ①元気な小国を育てる事業(7月8日実施) ・ウォーキングを続けていくことが大事 ・「歩こう会」の組織づくりを行ってはどうか ・小さな子供を育てている親子を対象とした企画も必要 ②高齢者元気支援事業 ・活動状況と今後の計画について報告、意見交換
	H24. 9.28(金)	3名	高齢者元気支援事業の関係者ワークショップへの参加
実行委員会	H24. 10.4(木)	2名	第2回「高齢者元気支援事業」実行委員会への出席(角山、山崎(廣)) ・事業の経過報告及び意見交換 ・前半のさくらの会への予防メニュー提供の感想と後半の提供者に、山崎(廣)、山田(晴)が入ることになる
	H24. 11.30(金)	2名	高齢者元気支援事業の住民参加型ワークショップへの参加
第3回分科会	H24. 12.18(火)	6名	・住民参加型ワークショップの実施報告 ・子育て親育ち応援事業(案)の企画について意見集約 ・2ヵ年の第1分科会のまとめ(案)について検討
第4回分科会	H25.2.26(火)	6名	・H24年度部会のまとめについて報告 ・高齢者元気支援事業の報告

【活動のポイント】

- ・「元気な小国を育てる事業」「高齢者元気支援事業」の2つの事業を取組むため、各々の実行委員会に第1分科会委員を配置した。
- ・元気な小国を育てる事業については、7月8日の開催の「食育講演会&健康ウォーキング」の実行委員会への参加や事前準備、当日の運営に役割分担を行って携わった。
- ・高齢者元気支援事業については、「地域ディ卒業生の集い(さくらの会)」の介護予防メニューの提供者として協力を行う。(4名)

【意見交換の視点】

- ・要望の多い「健康ウォーキング」について、次年度以降も継続できないか検討する。
- ・地域全体で取組める(体育)があった方がよい
- ・食べるもので母乳が出るなど食育の重要性
- ・ニュースポーツの紹介などの連携のあり方
- ・介護予防教室とか特養〇〇の里などという云い方のイメージが悪いのではないか
- ・地域介護予防ディ「よ〜いどん」も参加して体験できる仕組みはできないか
- ・運動や生きがい教室などの参加を老人クラブへ働きかけの必要性
- ・介護保険をもっと利用することのメリットを強調すること
(手すりの取付けなどの住宅改修や歩行器などのレンタル品の紹介が必要)
- ・サービスを利用してわかることをPRする
- ・家族が利用を遠慮している傾向も見える
- ・ディに行けということは、そんなふうに見られる
- ・日常の中で、刺激・対話・おしゃれ、他の人とお喋りをする

*この色の部分は、地域委員の具体的な動きです

地域委員会第1分科会 (H23～24年度のまとめ)

H21～22年度

【まとめ】①小国地域の住民が住み慣れた地域で必要な医療を受けながら安心して生活していくためには、医療関係者だけでなく、住民一人ひとりが医療の一方の担い手であることを認識し、地域の医療を支えていくことが求められている。②第1分科会では、2カ年を通じて検討を行った結果として、地域の医療や福祉のこれまでの変遷や現状を地域住民に理解を促すためシンポジウムを企画する。③シンポジウムでは、「一人ひとりの住民が地域の医療を支えていく」という視点から、住民ができることは何か、参加者とともに考える機会とする。

★地域委員の具体的な動き・・・①シンポジウムの企画立案

②主な講演者「金子医師、横田医師」へ出演依頼と日程調整等の折衝

H23年度

「これからの医療と福祉を考えるシンポジウム」をH23年7月3日(日)

小国会館で開催(参加者約300名)

—シンポの報告書を作成、地域内全世帯へ配布し周知した—
シンポジウムには約800名の参加があり、身近な医療(金子医師・横田医師)・福祉関係者等(4名)からの発言やジャーナリスト(大熊氏)による全国及び世界的な視点での取組みや聞く機会となり小国地域の医療・福祉について現状や課題を共有することができた。

【シンポ開催後意見交換の視点と課題】

- 基調講演やパネルディスカッションの内容、さらに参加者アンケートから課題を検討し、このシンポを一過性に留めることなく継続させていく視点を捉え、具体的な事業や活動の必要性を検討することになった。
- シンポを開催して分った課題の整理、議論を深めてほしいとの要望もあり掘り下げていく
- 小国地域総合センター(H24年4月)の開設後は、一箇所に集うことで多様な交流が可能
- 高齢化対策(在宅福祉サービス、在宅での安心安全、夜間安心コール)の充実
- 医療施設(小国診療所、横田クリニック)の充実とかかりつけ医制度の利用促進
- 民生委員からの問題点、若い人からの参加を促す、核家族化の解消
- 家族介護から介護の社会化へ、分りやすい介護保険制度の説明
- けんこつ体操などの介護予防事業を活発に、「男性」の参加促進

*かかりつけ医：日頃から患者の病歴を把握し、健康管理上のアドバイスをしてくれる身近な医師

H24年度

◆元氣な小国を育てる事業 —平成24年7月8日(日)小国会館周辺で開催

【趣旨・内容】

☆体育指導員、体育協会からも提案があって実現した事業

働き盛り世代を主なターゲットとして、食育講演会(新潟医療福祉大学斉藤トシ子氏)やウォーキング大会・ニュースポーツの紹介を実施し、運動を始める動機付けの機会とする。

【その他】より多くの参加者を募る観点から、小中学校主催の「地域連携フォーラム」とも共催

【参加者数など】

講演会：180人 ウォーキング：180人 ニュースポーツ57人

★地域委員の具体的な動き・・・

・前日の会場準備、当日のスタッフとして活躍

◆高齢者元氣支援事業

【趣旨】高齢化の顕著な小国地域では、いつまでも自立した生活が送れるよう介護予防や健康づくりが切実になっている。これまでに以上に、住民と関係機関が協働して問題解決に当ることが重要

【内容】①福祉関係機関によるワークショップと住民参加のワークショップの企画開催 ②後期高齢者向けんこつ体操教室の立ち上げと既存教室の参加者を増やす取組み ③地域型介護予防サービス修了者の集まりを立ち上げ ④けんこつ体操インストラクターの養成 ★地域委員の具体的な動き・・・

⑤上記を地域住民に知らせるための「PR通信」の発行

・いきいき教室に運営スタッフとして参加

【主な実績】

・ワークショップへの参加

①カーキョウの取組みを「ヒト・コト」リストとしてまとめ、総代や民生委員、地域住民へ報告会を開催

②「さくらの会」や「いきいき教室」を“だんだん”で定期的に開催して、継続的なつどいへ導く

③全戸向け「たっしやらかい通信」の発行(2回)

今後の展望・・・地域委員会第1分科会として

- (1)これまでの一連の活動では、地域の医療や福祉の実態を探求し、課題を解決するための具体的な事業を提案し、その企画立案や運営スタッフとして携わり一定の役割を果たしたと総括する。
- (2)H25年度は、少子化対策の一環として“子ども”を取り巻く環境を見直し、地域全体で子どもの成長を見守る体制づくりを目指すため「子育て・親育ち応援事業」を推進し協力していく。
- (3)地域委員として、住民に見える“動き”を意識して活動してきた。この思いが素直に伝わることに、そして全ての人が小国地域に住み続ける喜びが持てるように今後もそれぞれの立場で協働していきたい。